

を含むてゐるといへやう。その何れにも定めかねるものが所謂中間色である。

△色の感じ及び性質の上に於て、更に硬い心持のと軟らかい心持の出るのとある、この區別も製作の上に必要である。概して透明色及寒色は、着けた處が硬くなり易い、不透明色と暖色とは和らかに見える、それ等は畫くべきものゝ色彩のみでなく、物質によつて適宜に應用し着色すべきである。

△色彩の配合といふのは、取分け最も大切な事である。これ等に關して詳しく説明すると、一冊の書物としても不足の位ひであるから、是は諸君が別に研究せられることゝして、爰には極大タイだけの話をしやう、そして諸君は書物によつて調べると同時に、盛んに寫生をして經驗を積み、應用の力を養はねばならぬ。

△自然界の色彩は極めて多様ではあるが、此各種の色を産む原色を、通例黄赤青の三つとしてある。その二つを合して出來た色は褐色であつて、黄と赤と合すと橙色が出來、赤と青では紫色、青と黄では綠色が出來る、そして赤に對しては、黄と青より成りし緑、黄に對しては赤と青より成りし紫、青に對しては黄と赤より成りし橙色が反對色とよばれ、赤と紫とか、黄と橙とか、青と緑、又は赤と橙、黄と緑、青と紫などを同感色といふのである、以下それ等の色の調和に就いて説明しやう。

繪をかくには繪具の數は通常十色内外で充分である。人によりては之れよりも多く使用するもあり又た少なく使用するもあるが、之れは其人の經驗や都合によるので別に極まりはない。さて其種類は何々が宜いかと云ふに普通の色を以て言へば黄色にはガンボージ。イエロー、オーカー。ブラオン、ピンク。パアント、シエンナの四色。赤色にはバーミリオン。ライト、レッド。クリムソン、レーキ。ブラオンマダーの四色。青色にはコバルト、ブリュ。ビリヂアン。アントワブ、ブリュ。インデゴ。又はアイボリ、ブラツクの四色である(欽)